

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人ブーゲンビリア

代表者・役職名 氏名 統括理事長 内田絵子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

女性が乳がんになっても社会・地域の中で自分らしく輝く

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

統括理事長 内田絵子が滞在中のシンガポールで乳がんの治療を受け、尊厳のある医療に感銘を受ける。帰国後シンガポールで受けた医療の経験を生かし、1998年「内田絵子と女性の医療を考える会」を発足。2004年に法人格を取得。乳がんサバイバーを中心とした「NPO 法人ブーゲンビリア」として活動を継続。会員210人

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

目的:

乳がんは可能な限り早期に発見して正しいエビデンスのある治療を開始できれば、予後が良いと言われている。ただしステージⅠ・Ⅱ期でも再発や転移の可能性もあることを考慮して定期的な経過観察は必要だと言われている。そのことを踏まえ患者・市民が病気の原因を理解し、急性疾患に対して適切な治療法を選ぶこと、慢性疾患を管理することができる。

背景:

日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなり、生涯に乳がんになる女性は11人に1人と言われている。全国がんセンター協議会が公表している院内がん登録から算出された5年相対生存率によると、乳がんのステージⅠ・Ⅱとも5年生存率が90%以上。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

【乳がんになっても働き続ける女性を後押しするための環境整備】

6月11日「がんになっても職場・地域で輝き続けるために」シンポジウム開催。

企画運営: 当会。主催: 立川市男女平等参画課。基調講演者 国立がん研究センター・がん対策情報センター長 若尾文彦医師。

ホルモン療法の副作用や、がんになった後の仕事の継続状況について、アンケート調査から把握・分析した内容をもとに、提言活動等を実施。

【おしゃべり会や学習会の開催】

乳がん患者に仲間として寄り添うためのおしゃべりサロンの開催。毎月1日第2日曜日

乳がん転移・再発者のための「リボーンの会」開催。毎月1日

若年・シングルの乳がん、子宮がん患者のための「カチューシャの会」開催。毎月第2日曜日

非感染症の「NCD おしゃべりサロン」の開催。月1回

高齢化社会を健康に生きるための非感染症・認知症予防のための「OGB 健康おしゃべりサロン」の開催。毎月1回

学習会(別紙添付)

【ホームページのリニューアル】

ホームページを新しくする。WEB 制作者に委託しアクセスしやすく活用しやすいホームページを作る。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

【結果】【成果】【社会的な変化】【効果】

がんに罹患しても、地域・社会の中で自立し自分らしく生きることができる社会作りへの貢献。

おしゃべり会・シンポジウム・学習会開催によって、それに参加した会員・市民が、がんに罹患しても生存率が高く治療と生活・育児・介護・仕事の両立が可能であることを認識した。

特に乳がんになった患者や家族の不安軽減、生活の質の向上などを通じて、乳がん罹患女性が社会や家庭で自分らしく活躍できるよう支援。

ホームページをリニューアルしたことによりアクセス数が増え、ホームページを見ておしゃべり会・シンポジウム・学習会に参加する人数が増えた。ホームページから入会申し込みする人数が増えた。

[http://www. Buugenvilia.com](http://www.Buugenvilia.com)

がん医療と職場の架け橋 Bridge between Clinic & Company: BCC 第2回架け橋大賞・明日の架け橋賞受賞(2017年 12月1日)

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

【課題】

おしゃべり会・シンポジウム・学習会への参加者のすそ野を広げ参加者を増やす。

がん罹患者が社会や家庭で自分らしく活躍できるよう支援をする活動を継続するためのスタッフの確保と支援確保。

【展望】

がんの個別化医療は数多くの研究が進行中である。誤った解釈や情報に左右されることのないように、患者・市民のより良い治療選択のためにシンポジウム・学習会の開催を予定している。

2018年7月8日立川女性総合センターアイムホール

いのちのバトン薬はみんなで作るものパート10

「乳がんを学ぶ」がん個別化医療時代の医療者と患者のコミュニティ

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり